

自然科学研究科 地球社会基盤学専攻 地球惑星科学コース  
**【授与する学位】修士（学術）**

大学（大学院）の目的
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
博士前期課程は、理学及び工学の基礎及び応用に係る自然科学系分野において、学類での基礎教育を進展させ、「総合性」及び「学際性」に富んだ職業人と研究者を養成すること並びに博士後期課程への基礎課程としての教育研究を行うことを目的とする。 地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に、地域・地球規模の環境を包括的に捉え、地球と社会が安心して共創できる地球・社会基盤整備に係る研究に必要な専門知識と実践的スキルを修得させるとともに、それらを総合的に応用する能力の育成を図り、国際社会で活躍できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力、柔軟な課題設定・解決能力と実践能力を身につけた独創性豊かな研究者・技術者・教育者を養成する。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b> 地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に、地球の成り立ちを説明するスキルをもつ人材、或いは最先端の工学技術をもちいて、多様な地域社会の未来を探究する幅広い局面における高い専門性と学際性をもつ人材を育成することが、社会から期待されている。 そうした人材を育成するために、本専攻では、所定の課程を修め、かつ研究指導を受けた上で、環境科学あるいは社会基盤工学に関して自然界で起こる様々な現象をより広範な学際的視点も含め地球惑星科学的に説明・論述した修士論文又は特定の課題を作成する。この修士論文の審査、特定の課題の審査又は博士論文研究基礎力審査に合格した者に、修士（学術）を授与する。	<b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b> 地球社会基盤学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、研究科共通科目（大学院GS基盤科目、北陸先端科学技術大学院大学との連携科目、創成研究科目、国際交流科目）、専攻共通科目群、コース専門科目（専門科目群と実践科目群）、課題研究、および博士研究調査を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた科目を開講する。教育課程については、その体系性や構造を明示する。	<b>【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】</b> 21世紀における地球生命圏の保全、地域環境の形成及び社会基盤整備においては、われわれ人類の生存基盤となる地球、日常生活基盤となる社会及びそれらを取り巻く環境を対象に、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力が求められる。本専攻では明確な倫理観と論理的思考のもと、地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識を有し、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成する。
<b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b> (1) 国内外の社会的要請や環境の変化に対応した幅広い学術的知識 (2) 技術者或いは研究者としての高い倫理観 (3) 地球の成り立ちの解明あるいは社会基盤整備の高度化に必要な基礎知識 (4) 地球の成り立ちの解明あるいは地球環境に配慮した安全・安心な社会基盤の創出に必要な調査研究などに関する専門知識と先端技術 (5) 専門知識と先端技術を活用した問題発見能力、課題解決能力と実践能力 (6) 得られた成果を国内外にプレゼンテーションできる能力	<b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b> 1. 教育内容 研究室における研究指導を通じて、社会基盤工学や地球惑星科学における研究課題の立案や研究を推進する能力を育成する。また、文献演習を通じて学術論文の読解、専門情報の収集、学術雑誌の投稿論文の執筆等についての指導を行う。これらに加え、高度な工学的・科学的知識と最新の研究手法を修得するために、以下の講義科目を配置する。研究科共通科目および専攻共通科目群では、研究者の自立を目指す大学院初学者に不可欠な倫理や科学の光と影を学ぶ。研究は常にリスクと相対している状況を踏まえ、社会的問題も扱う。また我が国のイノベーションを担い、社会課題の解決に貢献できる人材として不可欠となる素養を身につける。 地球惑星科学コース 専門科目（専門科目群）では、地球惑星科学及び環境科学の発展的専門知識、実験・分析技術、野外における調査法、データ解析法を修得する。専門科目（実践科目群）では、地球惑星科学及び環境科学分野の発展的専門知識をもとに実験・分析技術や野外における調査法およびデータ解析法を実際に自然に応用し、活用経験を修得する。 2. 教育方法 講義科目によって自らの専門分野の最先端の研究動向を学ぶとともに、研究遂行能力を向上させるためにセミナーの実施や対外的な発表を推進し、発表スキルの向上を図る。 講義科目においては、最先端の研究を理解するために必要な知識、考え方、柔軟な発想力を修得し、研究意欲の高揚を図る。また、関連文献・資料を活用した調査研究を行うアクティブラーニングによって自ら研究課題を見出す独創性を培う。また、様々な形式のセミナーを実施することで、各自の研究テーマの学術的意義や背景、他分野との関わり、新たな学術領域の発展への貢献可能性をより深く理解するとともに、教員や学生同士のディスカッションを通じて論理的思考力を養う。これらの学修・議論を通して、学位取得に値する科学的思考力を身につける。	<b>【求める人材】</b> 科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を深めて活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待する。
	<b>【学修成果の評価】</b> (1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 (2) 論文、特定の課題又は博士論文研究基礎力審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。	<b>【選抜の基本方針】</b> 地球社会基盤学専攻は、学力検査（英語外部試験、筆記試験及び口述試験）及び学業成績証明書により、英語と数学、地球惑星科学の探求、地球環境の形成及び社会基盤整備の幅広い局面で必要となる知識に関する志願者の能力や資質を総合的に評価する。
		<b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b> 地球惑星科学コースでは英語及び課程教育の基礎となる数学、並びに地質学、古生物学、岩石学、鉱物学、結晶学、地球環境学、地球年代学及び地球物理学の習得が必要である。